

【メルディア】一般財団法人メルディア広報誌

TAKE FREE

MELDIA

VOL.53
JAN.2023



明日に向かって!世界の障がい者 ～ミャンマー編～

「障がい者がいることは当たり前」の世の中にするために
『お子さま大歓迎』と同じように、『障がいを
お持ちの方も大歓迎』と言われる社会を目指し、
キッズモデルを通して世間に訴えたい

一障がい児キッズモデル事務所「華ひらく」代表 内木 美樹

2年半ぶりの
リアルイベントは
大盛況!

みんな一緒に楽しめる

「MELDIA フェスタ 2022 オータム」 イベント特集

MELDIA FESTA 2022 AUTUMN



04 2年半ぶりのリアルイベントは大盛況!
みんな一緒に楽しめる
「MELDIA フェスタ 2022 オータム」
イベント開催
MELDIA FESTA 2022 AUTUMN



08 「障がい者がいることは当たり前」の世の中にするために
『お子さま大歓迎』と同じように、
『障がいをお持ちの方も大歓迎』と
言われる社会を目指し、
キッズモデルを通して世間に訴えたい
 —障がい児キッズモデル事務所「華ひらく」代表 内木 美樹



12 気になるギャラリー・カフェ
「ともに楽しむ、ともに生きる」
繋がりを目指して ジャック&豆の木



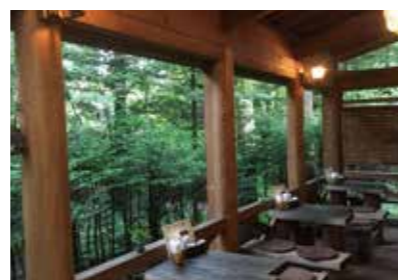
14 **明日に向かって!世界の障がい者** ~ミャンマー編~

16 障がい者を応援、支援企業紹介
企業探訪 日本理化学工業株式会社



18 「令和4年度障害者雇用優良事業所」石川県知事表彰受賞企業と
障がい者雇用を考える

20 **おさんぽDE楽しむ!**
 ~冬も心温まる軽井沢の人気スポット~



22 漫画エッセイ
うちの子、へん?
【発達障害・知的障害の子と生きる】



26 コロナ禍の影響で、自分がとても尊い仕事をしていると痛感
水越けいこ M Size はじまり Again

28 MELDIAつなぐ

30 読者プレゼント

自閉症の天才イラストレーター **松元伸乃介さんを大解剖!**

どんな人も動物に見えるという松元伸乃介さんは、「似顔絵」として、その人を動物に例えて描いてくれます。独特な色使いで、気持ちを込めて描く絵は、多くの人の心を捉えて放しません。それはまるで、絵を通して会話をしているよう。

「私は何の動物? 何色?」周りには笑顔がいっぱい

筆ペンで動物の輪郭を描き、イラストレーターが使うカラーペンで色をつけていく松元伸乃介さん。カラーペンは何と約300色も揃えているそう。同じクマやヒョウなどでも、人によって選ぶ色が違うのが不思議です。

東京都千代田区神保町の「ブックハウスカフェ」で2日間にわたって開催された「MELDIA フェスタ 2022 オータム」では、個展と即興絵画パフォーマンスが開かれ、多くのお客さまが色とりどりの「動物似顔絵」を描いてもらっていました。



「即興絵画パフォーマンスでは、疲れを見せることなく描き続けて、息子の成長を感じました」とお母さん。

絵はどこで覚えたのでしょうか?
 実は、絵を習ったことがなく、独学。子どもの頃、お母さんと一緒に絵を描いて遊んでいました。ところが、お母さんの絵にダメ出し! その時の、「それなら、自分で描いてごらんさい」というひと言がきっかけになったそうです。きっと、自分の中で試行錯誤して今のスタイルができあがったのでしょう。

好きな食べ物、嫌いな食べ物は?
好き! 野菜サラダとお肉。特にお米が好きで、お赤飯や炊き込みご飯は大好物!
「キライ」 生のネギ(火を通せば大丈夫!)ネギ独特の臭いが苦手なのかも…

松元伸乃介さんって こんな人!

やっていて楽しいこと、嫌なこと
好き! 本屋へ行くこと、動物園に行くこと。静かな博物館や美術館も大好きです。
「キライ」 大きな音が苦手なので、映画館。ジェットコースターやお化け屋敷も暗くて苦手。

自分の姿を鏡で見、絵を描くならどんな動物?
ビーグル犬!!
 お母さんがビーグル犬をモチーフにしたスヌービー好きのため、家にはいっぱいグッズがあるのだとか。そのためか、ビーグル犬が大好きに! 自分を描くなら、絶対にビーグル犬にするというのは、お母さんへの愛情からかも知れません。

今後の活動予定は?
 7月に地元金沢で、イラスト原画展を開催する予定です。心がほんわかするような作品を見て、伸乃介さんの思いや世界観に浸ってください。

松元伸乃介
 1989年4月18日生まれ。石川県金沢市在住の天才イラストレーター。人と話すことが少し苦手、絵を通してみんなと会話をします。とくに動物の絵を描くのが得意で、絵には伸乃介さんの気持ちが込められています。3歳のとき、重度の知的障がいと自閉症の傾向が強いと告げられました。幼稚園のときから動物の絵にこだわりはじめ、これまで描きためた絵は3,000点以上にのぼります。カラフルで細かいタッチの絵がとても特徴的。また、人間を描くときもなぜか動物で描き、個展などで描く「似顔絵」は、絶大な人気を得ています。
<https://www.tvkanazawa.co.jp/shinnosuke/>



セツ(株)より「MELDIA フェスタ 2022 オータム」へ、全員プレゼントの携帯用アルコール除菌剤とビンゴ大会景品の図書カードが授与されました。



過去に描いてもらった精悍なライオン(携帯)と、今日の柔かなライオン。

動物や表情が変わるんです。だから、その都度、彼を通して自分がどういう状態なのかを知ることができます。サラリーマンだった頃はラクダが2回連続しました。独立したらトラになりました。次にライオンになりました。最初は精悍

千代田区の後援でリアルイベントを開催

これまでも、一般財団法人メルディアでは、障がい者とそのご家族に「楽しみ」と「ホッとする空間」を提供する目的で、さまざまなイベントを開催してきました。ところが、コロナ禍により、ここ2年半はオンライン開催のみとなっていたのです。

新型コロナウイルス感染者数が落ちついたこともあり、今回は新たに「MELDIA フェスタ 2022 オータム」というネーミングで、2年半ぶりにリアルイベントを開催されました。

千代田区の後援を得ていたこともあり、初日には樋口 高顕千代田区長が来場され、会場の写真を熱心に撮影されていました。

セツ(株)に協賛いただき、来場者全員にキャラクター入り携帯用アルコール除菌剤をプレゼント。また、ビンゴ大会へは図書カードもご提供いただきました。

2年半ぶりのリアルイベントは大盛況! みんな一緒に楽しめる 「MELDIA フェスタ 2022 オータム」イベント開催 MELDIA FESTA 2022 AUTUMN



あまりの反響に驚かされた松元伸乃介氏の即興絵画

イベントでは、自閉症の天才イラストレーター・松元伸乃介氏の絵画展、さらに、彼には人が動物に見えるということから、訪れた人をその場で動物として描く即興絵画パフォーマンスを開催。同時に、小平福祉園の障がい者によるミニコンサート、ヨーヨー釣り・くじなどのミニゲームも行われました。

何といっても話題だったのが、松元伸乃介氏。開催時間前から店頭で待っていたお客さまもいて、「彼がアトリエにいる金沢のスナックで絵を描いてもらって、すっかりその魅力にはまりました。今回、このフェスタにいらっしやると伺って、川崎から友人を誘って来たんです。今も絵を描いてもらったんですが、前回と同じウサギでした。人からどう見られているのか分かって、面白かったです」と。また「私はもう6〜7回描いても



演奏者が楽しみ、観客が感動した障がい者によるミニコンサート

な顔のライオンでしたが、今回は穏やかなライオンでしたね。少しずつ見られ方が変わるのかなと思います」というファームも。

即興絵画パフォーマンスは午後からの予定だったので、あまりにもお客さまが多かったため、開場と同時にパフォーマンスを始めることに。実は前日、ブックハウスカフェに「松元伸乃乃さんに絵を描いてもらうには、予約が必要ですか？」と問い合わせがきたほど、大きな反響があったのです。

2日間、休みなく絵を描き続けた松元氏は「集中するから疲れたけど、みんながよるこんでくれてとてもうれしかった」と。同行したお母さまも「いつもはスナックの片隅で描いているのですが、画家としてのスペースを作っていたらいいですね、興奮していたみたいです」とおっしゃいます。

小平福祉園によるミニコンサートでは、視覚障がいをもつ少女の澄んだ歌声に、「心の奥にすーっと入ってくるような歌声で、感動しました」と涙するお客さまもいらつしゃいました。障がい者バンドによるセッションの後には、観客全員に楽器が配られ、演奏者と会場が一体となつて音を奏でます。

バンドリーダーをしている、臨床心理士・公認心理師の石川泰さんは、コンサートを終えて、「皆、緊張していたし、張り切っていたと思います。今日は演奏をしていて、彼らとすぐ目が合ったんです。僕にアイコンタクトを送ってくるんですね。その目がキラキラ輝いて、『楽しい』と訴えていました。今まではセッションをしても、こんなに目が合うことはありませんでした。きっと、多くのお客さまが、自分達の演奏を聴いてくれて、その上、拍手までしてくれて、すごく刺激になったし、うれしかったんだと思います」と感想を話してくださいました。バンドメンバーのひとりも「すごく楽しかったから、ぜひ、またやりたい！」と目を輝かせながら言います。きっと、一人ひとり、今日のコンサートを通して得るものが多かったでしょう。



障がい者家族が周囲に気兼ねなく行ける場所を！

ヨーヨーを釣り上げてうれしそうにしているお子さんを、愛おしそうに眺めていたお母さんは、「子どもに障がいがあると、なかなか連れて行ける遊び場がありません。今回は障がい者を対象にしているということだったので、安心して来ることができました。子どもが緑日を楽しむ姿を見て、正直、とてもうれしかった」と言いつつ、「もっと、私たちのような家族が、周囲に気兼ねすることなく、連れて行ける場所が増えるといいなと思います」と障がい者家族の現状を訴えます。

今回、イベントの協賛をしてくださったセツツ(株)の大前敏和代表取締役社長は「セツツの親会社は日清オイリオグループです。日本を代表する企業の系列会社として、これからのように社会貢献をしていくのが、私たちの課題でした。実は、私どもは今までそういうことをしたことがなかったのですから…」と前置きをしたらうえて、「今回、このイベントの協賛というお話を伺ったとき、社会貢献を始めるには良い機会だということ、よるこんで協力させていただきました。SDGsやESG(環境・社会・コーポレートガバナンス)が言われる中で、社会貢献は我々の目標でもありま



す。しかし、いざ行おうとすると、何かから手をつけていいのかわかりません。しかし、今日、イベントを見学させていただきました。携わっている皆さんの気持ちやメルディアの取り組みに接し、私も考えさせられることがたくさんありました。例えば、商品のキャラクターを作るとき、障がい者の方に関わっていたかどうか…。ヒントをたくさんいただいた気がします。これからのような活動に対して協力し、皆さんの力になっていきたいと思えます」とおっしゃいます。

障がい者ご家族によるこんでいただけ、そうでない方々には考える種をまくことができた今回のイベント。これからも続けていく必要がありそうです。





「保育園に通わせていたんですが、ある日の夕方、いつも通りに迎えにいくと、担任の先生から突然『ママ、ちょっといい?』と呼び止められ、『たけちゃん、耳が聞こえていないかもしれないよ』と言われしました。青天の霹靂とはまさにこのことです。その先生が言うには『これくらいの歳になると、名前を呼ぶと振り向く』と、お友達の名前を呼びました。『ほら、振り向いたでしょう。でも、たけちゃん振り向かないの』と尊たけるの名前を呼ぶのです。確かに、まったく振り向きません。家では不自由を感じていなかったのですが、聴覚のことは考えたこともありませんでした」と内木さん。

しかし、母親の勘で「聞こえないんじゃない。成長が人よりゆっくりなのか、発達障がいなのか」と考えたそう。近くの耳鼻科に連れて行っても検査ができません、大病院を受診することに。「いくつもの病院を回りました。最終的に、医師が『限りなく重度に近い中度(現在は重度)の知的障がいと自閉症』との診断を下したのは、尊たけるが3歳になる直前でした」担任のひと言から確定診断まで、ほぼ1年。この間、どのような気持ちだったのでしょうか。内木さんは、「初めての子育てだったから、子どもの成長がどんなものか分かりません。確かに発表会や運動会などに行くと、尊たけるは明らかに他の子と違っていました。だから、1年の間に覚悟ができましたね」と言いつつも、「天才肌といわれる人の中には、発達障がいを抱えている方もいらっしゃいます。ですから、検査をするたびに、発達障がいだけであつて欲しい。それなら何とかかなると思っていたのです。でも、尊たけるには知的障がいもありました。それを聞いた瞬間、最後のはしこさえ外された気持ちでした。絶望、ショック、目の前の道が消えた。そんな気分ですね」と本音がのぞきます。

障がいを知って欲しいと始めた キッズモデル事務所



きっかけは、担任のひと言 「聞こえていないかも」から

子育てをしながら、接客英会話レッスンの企業を立ち上げ、公私ともに充実していた内木美樹さん。長男・尊たけるくんが障がいを知ったのは、彼が2歳を迎える直前でした。

「保育園に通わせていたんですが、ある日の夕方、いつも通りに迎えにいくと、担任の先生から突然『ママ、ちょっといい?』と呼び止められ、『たけちゃん、耳が聞こえていないかもしれないよ』と言われしました。青天の霹靂とはまさにこのことです。その先生が言うには『これくらいの歳になると、名前を呼ぶと振り向く』と、お友達の名前を呼びました。『ほら、振り向いたでしょう。でも、たけちゃん振り向かないの』と尊たけるの名前を呼ぶのです。確かに、まったく振り向きません。家では不自由を感じていなかったのですが、聴覚のことは考えたこともありませんでした」と内木さん。

しかし、母親の勘で「聞こえないんじゃない。成長が人よりゆっくりなのか、発達障がいなのか」と考えたそう。近くの耳鼻科に連れて行っても検査ができません、大病院を受診することに。「いくつもの病院を回りました。最終的に、医師が『限りなく重度に近い中度(現在は重度)の知的障がいと自閉症』との診断を下したのは、尊たけるが3歳になる直前でした」担任のひと言から確定診断まで、ほぼ1年。この間、どのような気持ちだったのでしょうか。内木さんは、「初めての子育てだったから、子どもの成長がどんなものか分かりません。確かに発表会や運動会などに行くと、尊たけるは明らかに他の子と違っていました。だから、1年の間に覚悟ができましたね」と言いつつも、「天才肌といわれる人の中には、発達障がいを抱えている方もいらっしゃいます。ですから、検査をするたびに、発達障がいだけであつて欲しい。それなら何とかかなると思っていたのです。でも、尊たけるには知的障がいもありました。それを聞いた瞬間、最後のはしこさえ外された気持ちでした。絶望、ショック、目の前の道が消えた。そんな気分ですね」と本音がのぞきます。

「聞こえていないかも」から、子育てをしながら、接客英会話レッスンの企業を立ち上げ、公私ともに充実していた内木美樹さん。長男・尊たけるくんが障がいを知ったのは、彼が2歳を迎える直前でした。



「障がい者がいることは当たり前」の世の中にするために

『お子さま大歓迎』と同じように、
『障がいをお持ちの方も大歓迎』と
言われる社会を目指し、
キッズモデルを通して世間に訴えたい

障がい児キッズモデル事務所「華ひらく」代表 内木 美樹



写真は「お花屋さんのこどもごはん」こうくん



写真は「日本理化学工業」なぎささん



写真は「VISAGE studio」すみれさん

まで、障がい者に対して偏見や差別的な意識を持っていました。だからこそ、皆さんの意識を変えて、障がい者を取り巻く壁をなくしたいのです」と言います。

内木さんが代表を務めている障がい児キッズモデル事務所「華ひらく」では、登録に審査がありません。いくつかの条件を満たせば、誰でもモデルになれるます。「保護者に提示する条件のひとつに、『私たちの思いに共感し、賛同してくれる方』というのをあげています。具体的には、自分の子どもをモデルとして矢面に立たせてでも、世間に『興味を持ってもらいたい、知ってもらいたい』と思える方

です。決して子どもを芸能人にしたい訳ではありません。そこには障がい児をもつ親の覚悟さえ見えました。

登録したお母さんからは「息子にとっても良いことなのか、障がいを公表することで傷つかないのかとても迷いました。でも、息子が『やりたい』と言って気づいたのです。そうだと、障がいは恥ずべきことじゃない。堂々と胸を張って生きて欲しい」との声。また、撮影を終えたお母さんからは「障がいがあるからこそ撮れる写真があると気づかされました。計算のない姿は、笑顔、泣き顔、怒り顔などどれも自然で魅力的です」とも。

キッズモデルの先にあること 『誰ひとり取り残さない』社会

障がいを持つお子さんを育てて思うこととして、内木さんは「この世の中は全て健常者仕様なんです。だから、公園に行っても、店に入っても、1日に何回も『うちの子がすみません』と思ってしまいます。車で行ける範囲しか旅行できない。外食も迷惑を掛けないように素早く済ませる。ショッピングモールやレストランでは、『お子さま大歓迎』というステッカーが貼ってあったりしますよね。

それと同じように『障がいをお持ちの方も大歓迎』と公表して欲しい。それだけで、私たちは利用しやすくなります」と打ち明けてくれました。

「障がい者支援が進んでいる欧米の友人に『あなたの国に、障がい者モデルっている?』と聞いたことがありません。すると『そんなの当たり前じゃない』と言われました。彼らにとって、障がいも多様なマイノリティのひとつなんです。今、SDGsが叫ばれています。その理念は『誰ひとり取り残さない』です。障がい者もその『誰ひとり』の中に入ってい

るのではないのでしょうか」

内木さんは「私たちからアクションを起こして、世の中に障がい者がいることに気づいてもらうきっかけを作り、ゆくゆくは障がい者とそうでない人が歩みよれる世の中になるといい」と言います。いつか日本でも、そこに障がい者がいることが当たり前になるようにと。

**日本語が難しければ、
英語で意思疎通をすればいい**

ところで、取材中、内木さんは尊くんと英語で会話をしていました。その理由を尋ねると、「私は海外で仕事をしていたので、尊が5、6歳になるまで英語で話しかけていました。ある時、家以外では日本語で話しかけられているはずなのに、なぜか日本語を話さないことに気づいたんです。今でも、日本語は読めませんが、英語の読み書きはできます。母音が強い日本語の周波数は、子音が強い英語より狭いといわれていて、聴覚に過敏な子は広い周波数帯の方が聴き取りやすいのでしょう。日本語には平仮名、カタカナ、漢字があって覚えるのが大変ですが、アルファベットは26文字しかないというのも理由かも知れません。実際、よく『うちの子も英語の方がよく理解できます』という声を聞きます。もともと、親が英語で話せないと思慮疎通は難しいですけど…」



内木 美樹

障がい児キッズモデル事務所「華ひらく」代表。アメリカのTruckee Meadows Community Collegeを卒業後、ネバダ州の国際カジノホテルに就職。帰国後、2010年に(株)華ひらくを設立し、飲食店の接客英会話レッスンをを行う。2021年には新事業として、障がい児キッズモデルのマネジメントやコンサルティングなどを展開。2013年生まれの子には知的障がいと自閉症がある。



障がい児キッズモデル事務所「華ひらく」

障がい者を取り巻く壁をなくしたいという思いから立ち上げられた、障がい児キッズモデル事務所。障がい者に目を向ける企業があふれて欲しいという願いの実現に向け、0歳から15歳までの子ども約40人が活躍しています。
<https://colorfulkidmodels.com>

日本語が無理なら英語でという柔軟な考え方があっていいのかもしれない。

気になるギャラリー・カフェ

「ともに楽しむ、ともに生きる」

繋がりの場を目指して

ジャック&豆の木



神奈川県鎌倉市由比ガ浜2丁目4-39
松田屋本店ビル1F
TEL&FAX/0467-24-6202
営業時間/11:00~17:00
定休日/毎週月曜日
URL/jack-bean.jp



展示のお手伝いなどしています」と管理者の土居裕治さん。
店自慢のハンドドリップによる炭火焙煎のコーヒーを淹れてくれるのも障がいのある利用者さんで、「皆さん、ここで働くのは楽しい、やりがいがあるとあって、長い方では8年くらい続いているんですよ。カフェですから作業内容は決まっているので、指導者がサポートするまでもなく、利用者さん同士で協力し助け合う体制が自然にできています。利用者さんは、いつも明るい。同じ境遇の方たちが、ともに働き、社会参加する場としての役割は果たせていると思っています」(土居さん)



北川陽子さんの「モバイル」の作品



開催中の「陶と布とモバイル展」



ギャラリー・カフェは、就労継続支援B型事業所

観光地として人気のある鎌倉。その玄関口ともいえる鎌倉駅から、由比ガ浜商店街をゆっくり歩いて6〜7分のところにある「ジャック&豆の木」があります。

カフェが入る3階建てのモダンなビルは、煮豆などを販売していた老舗のお豆屋さんでしたが、精神障がいのある家族が、生まれ育った鎌倉で暮らしているようにと成年後見人制度を利用して建てられた、遺族の思いが込められた福祉のビルです。

1階の全面ガラス張りの入り口から中をのぞくと、まず展示物の並ぶギャラリーがあり、その奥にツタの緑が美しく、陽光が差し込む開放的なカフェが見えます。

2007年(平成19年)に障がい者の就労の場、社会参加の場、地域との交流の場を目指してオープンし、現在は特定非営利活動法人地域生活サポートまいんどが就労継続支援B型事業所として運営しているギャラリー・カフェです。

「カフェのスタッフさんは精神障がいの22名で、1日10名前後でシフトを組み、無理なく自分のペースで作業に入っています。ただいっています。主な作業は、店内の清掃、コーヒーを淹れたり、ランチを調理し提供しています。時にはギャラリーの

文化の発信地、交流の場としてギャラリーを活用

障がい者雇用を目的にしたカフェというだけではなく、その先にある「ともに楽しむ、ともに生きる」共生社会の実現を目指そうとギャラリーも併設されています。各種イベントやセミナー、ライブ会場、パーティー会場など、様々な利用され、地域の交流の場としての役割も担っているのです。

「コロナ禍ですが、ある展示期間中に『夏祭りっぽいことしたいよね』と話が合い作家さんが作る風鈴を販売することに、カフェでは夏っぽいジュースの販売をしました。パインアップルとバナナのミックスジュースやスイカのジュースは好評でした。地元の子どもの作品を展示する企画も進行中です」(土居さん)

ちょっと変わったイベントでは、「鎌倉FABの13人」というプロジェクトで、3Dプリンターで鎌倉の立体地図を作ることに、当ギャラリーにも3Dプリンターが設置されました(イベントは終了)。3Dプリンターを間近で見ることができるので、子どもたちがギャラリーに立ち寄ってくれたそうです。

取材で訪れた日は4人の作家による「陶と布とモバイル展」が開催中でした。モバイル作家でEnjoy makingの北川陽子さんの作品は、鎌倉の浜で拾



(右)「ジャック&豆の木」管理者・土居裕治さん
(左)「Enjoy making」主宰・北川陽子さん

1名様 PRESENT A
北川陽子さんの作品「ポルカドットモバイル」
詳しくは30ページ



知的障がい者の自立と
仕事について考える

ミャンマーダウン症協会では、就職準備のための能力開発から、仕事の斡旋まで行っています。「技術サポートスタッフから作り方を教えてもらい、障がい者がアルコールハンドスプレーや石けんを作って、オリジナルブランド『Choice』として販売もしています。最近特に増えてきたのは、知的障がい者をモデルにした広告です」

ミャンマーダウン症協会の今後については、「障がい者が自立できるよう、トレーニングセンターを作りたい」とのこと。明日に向かって力強く動いています。



CHOICE Hand Spray/Gel Khant Yay Kyiさん



Mitsubishi Motors Myanmar 広告/
Pyae Phyto Maungさん、La Young Linさん



明日に向かって！ 世界の障がい者

～ミャンマー編～

多くの障がい児が学校に通っていないという現実を抱えたミャンマーですが、家族がミャンマーダウン症協会を立ち上げるなど、明るい未来を目指しています。



「自分達のためから
「みんなのため」に

ミャンマーでは、知的障がい者のための学校が発達していません。教育のみならず、雇用機会も障がい者の医療など、さまざまなサービスへのアクセスも限られたものでした。今でも、行動療法士、言語聴覚療法士、作業療法士などセラピストの種類は限られており、携わる人数が少ないのが現状です。そのため、障がい者の家族は不安を感じています。困っていた保護者たちは障がい者育成の活動ができる組織を作りたいと思いました。そこで、ダウン症の家族、特別支援学校の校長や教師、各分野の技術専門家の協力を得て、2015年に非営利団体のミャンマーダウン症協会(MDSA)を設立したのです。

現在、ミャンマーダウン症協会の活動



ダウン症の娘から学ぶことが多い

現在はミャンマーダウン症協会が主催する自己啓発活動に参加し、日々楽しく暮らしていますが、Khant Yay Kyiさんは長年、慢性腎臓病で何度も手術し、ダウン症と闘ってきました。

お母さんは「大学の卒業衣装を身につけることはできませんでしたが、些細なことにも感謝し、困難に直面しても諦めず、写真モデルとして働きながら、満ち足りた日々を送っています。自分のやり方で家事をこなし、知識と能力でコミュニティの一員になる努力をしているのです。そんな彼女から学ぶことは多い。ありのままを受け入れて向き合うことができれば、世界を楽しむことができるでしょう」と言います。



はミャンマー全土をカバーし、4000人の障がい者メンバーを含む、5000人以上の人々に手を差し伸べています。